

## 流域治水の取り組み 流域治水オフィシャルサポーター（その10）

### 1. 東京都における流域治水の最新動向

当社（本社）が位置する東京都における流域治水の最新動向を紹介する。近年、都市部では局地的豪雨や台風による浸水被害が増加しており、従来の河川整備だけでは十分な対応が困難となっている。こうした中、東京都では国の「流域治水」の考え方を取り入れ、河川だけでなく流域全体での多重防御を目指す施策を展開している。都市の高密度化や地下空間の利用拡大という条件下で、河川管理者・下水道部局・自治体・住民が連携し、総合的な対策を進めている点が特徴である。

#### 1-1. 城南地区流域治水プロジェクト

目黒川や呑川流域を対象としたプロジェクトで、都市整備局が中心となり、河川・下水道・都市計画部門が一体で対策を推進。雨水貯留浸透施設の整備、土地利用規制、流域内の雨水流出抑制などを計画的に実施している。また、最新のハザードマップ更新や住民向け説明会により、防災意識の向上も図っている。

※東京都都市整備局 HP より

<https://www.toshiseibi.metro.tokyo.lg.jp/bosai>

#### 1-2. 杉並区と東京都のグリーンインフラ連携協定

2025年5月、杉並区と東京都が協定を締結。流域治水の一環として、雨水を地上・地下で分散処理するグリーンインフラの推進を掲げた。市街地での雨庭や透水性舗装の導入、地域住民との協働による浸水対策など、ソフトとハードを組み合わせた取り組みが進行中である。定期的にワークショップを開催し、地域コミュニティの防災力向上にもつなげている。

※杉並区 HP より

<https://www.city.suginami.tokyo.jp/index.html>

#### 1-3. 神田川環状七号線地下調節池の活用

総貯水容量約54万m<sup>3</sup>を誇る巨大な地下調節池は、集中豪雨時に河川水を一時貯留し、氾濫リスクを低減する都市インフラの要である。近年は見学会やVR体験を通じ、都民への理解促進にも活用されている。これは都市部におけるハード対策の象徴的事例といえる（図1参照）。

※東京都建設局 HP より

<https://www.kensetsu3.metro.tokyo.lg.jp/index.html>

東京都河川施設360°バーチャルツアーでは、普段見られない河川施設内部の360°画像や、川の上空からドローンで撮影した360°動画などを用いて、河川施設の

見学や自然豊かな水辺の散策などを疑似体験することができます（図2参照）。

※東京都河川施設360°バーチャルツアーHPより

<https://www.kensetsu3.metro.tokyo.lg.jp/index.html>



図1 神田川・環状七号線地下調節池の位置関係

※雨水市民の会 with WEB あまみず HP より

<https://www.skywater.jp/>



図2 東京都河川施設360°バーチャルツアー画面例

#### 1-4. 考察

東京都の流域治水は、大規模インフラによる洪水調節機能と、地域密着型の雨水分散処理を組み合わせた「都市型モデル」として位置付けられる。また、住民参加や啓発活動を通じて、自助・共助の強化も図られており、持続可能な防災体制構築の好例である。今後は、これらの事例を他自治体や全国都市部に水平展開することが期待される。

#### 2. 弊社からの情報提供

弊社では流域治水に関連する様々な業務を実施しています。加えて、MCC 研究所においても様々な技術研究を行っています。今後も業務・研究において流域治水に資する取り組みを継続・強化していきます。弊社ホームページでは今年度も引き続き「テクノロジーレポート」を公開していく予定です。技術的な相談については下記 URL からお問い合わせ下さい。

<https://www.mccnet.co.jp/>